

## 1 調査研究の背景・目的

学校では授業や校務でICTを効果的に活用することが求められている。

- (1) 教職員の困りや苦手分野に焦点を当て、克服する手立てを探る。
- (2) 教職員のICT操作スキル向上や授業でのICT活用を進める教職員研修に反映させる。
- (3) 学校の学習端末の使用状況や無線LAN等の通信環境を調査し、次期端末更新時における課題を明らかにする。

## 2 調査研究の内容

### 1 先進地視察:京都府教育庁

- 府立高等学校では、令和3年度から、教育用ICT端末のBYOD(自己端末の活用)を選択実施している。
- 学校の授業における学習だけでなく、家庭における自学自習、探究的な学習、個人の学びの深化につながる活動として有効的に活用されることを想定している。
- 現時点ではBYAD(推奨機種を私費購入した端末活用)で運用している。学校内でOSの統一を図り、将来は、本来のBYODを目指している。
- ▲運用上の課題として、MDM設定に費用がかかり、個人負担で購入した端末を自由に利用できないという意見がある。  
→令和6年度からMDMを導入しない予定

### 2 教育委員会対象のセミナーの参加

令和5年10月20日開催

テーマ「GIGAスクール構想 ICT機器の整備・活用/校務の情報化の推進」

- ・ GIGA端末更新時期:自治体が行ってきたことを振り返る時期
- ・ アンケートの電子化で、集計作業時間(試算)  
6,500時間 → 3,000時間[▲3,500時間削減]  
アンケートより、アクセスログ解析が現状把握に最適である。
- ・ Next GIGAのために今打っておく一手  
「ゼロトラスト(=全てのアクセスや通信は信頼しない)ネットワークの構築」  
「端末の共同調達」である。

- ・ 教育データの利活用に障害がないか、遠隔操作によるデータ流出防止の仕組みが構築されているかの観点から、エンドポイント(端末)セキュリティ設定が重要である。

### 3 ICT操作スキル向上研修の実施(全6回、延べ受講者数:計18名)

Word 3名、Excel初級 1名、Excel上級 5名  
Googleドライブ 7名、iPad 1名、iMovie 1名

- 研修評価平均値3.93/4(評価4の割合92.6%)
- 学校全体で使用している機能について学びたいニーズはなくなり、一部の教職員が使用する機能について学びたいニーズがあった。
- ▲必要なIT用語、名称を覚えていない場合は、集合での研修が必要である。
- ▲OS、アプリの更新頻度が高く、研修資料の更新や使用アプリの変更を余儀なくされる。

## 3 考察

### 1 大分県のICT環境の変化について[成果]

- 令和3年度から5年度までの3年間で、1人1台端末を文房具として使用することが当たり前になりつつある。
- 令和3年度の端末導入当初は、学校によりインターネット接続が不安定だったが、令和3年度末には、接続不良がほぼ解消されている。
- 県立高等学校では、授業支援アプリ「MetaMoji」の授業活用が進み、紙配布していた教材が電子配信できるようになり、考査の採点補助システムを活用すること等で、教職員の業務時間の縮減につながっていると考えられる。

### 2 今後の方向性について[課題克服への提言]

- ・ 大分県で取組の検討をすべきことの一つに、他県で実施されている児童生徒の「スタディオグ」を取得し、教育データの利活用を進めることで、教育活動の充実を図ることが考えられる。
- ・ 教職員のICT活用スキルとして、疑問に思ったことをインターネット上で調べ、問題解決ができる手がかりをつかむスキルが必要である。